



臨床の幅を拡げる炭酸ガスフラクショナルレーザーの臨床評価とその展望

日時：6月15日(土) 18:05～19:05

会場：パシフィコ横浜 第1会場 (会議センター 1F メインホール)

座長：川名 誠司 先生 (日本医科大学皮膚科教授)

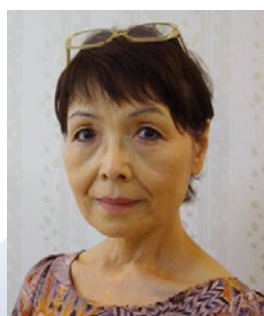


演題 眼瞼周辺の光老化皮膚に対する美容皮膚科的治療の現状

演者 船坂 陽子 先生 (日本医科大学皮膚科准教授)

光老化皮膚の表皮の変化としては、角化細胞の増殖・分化の変調により、角層水分の保持能低下が、また真皮の変化としては、紫外線照射によるコラーゲナーゼ遺伝子の発現亢進・コラーゲナーゼ産生の増加によるコラーゲンの崩壊亢進、およびグリコサミノグリカンと大型コンドロイチン硫酸プロテオグリカンの日光弾力線維変性部におけ

る沈着が明らかにされている。眼瞼周辺の光老化皮膚を治療するには、1) 皮膚の再生による改善が期待できるものとしてレチノイド、ケミカルピーリング、Intense Pulsed Light, ablative もしくは non-ablative の fractional laser、ラジオ波、2) 皮膚容積減少の改善を求めて注入剤による治療、3) 外科的手術などがあげられる。最近報告されている各々の治療の概要および効果について総括する。



演題 スマートサイドドット照射によるリジュビネーション効果の検討および各種瘢痕治療への応用

演者 実川 久美子 先生 (実川皮フ科クリニック)

スマートサイドドットは、スマートパルス機能を搭載する炭酸ガスフラクショナルレーザーであり、出力、パルス幅、ドット間隔が可変可能である。もう一つの特徴として同一部位に5回まで重複照射が可能なスタッキングは、出力を上げず表皮のダメージをできるだけ制限しながら熱凝固層を深達させる機能を有する。照射の大きさ、形も可変可能であり、患者のニーズに合わせてカスタマイズし

た治療が行える。上下眼瞼を含む顔全体に低出力照射を行うことで、安全かつ短いダウンタイムでリジュビネーション効果を得ることができたので報告する。特に、上下眼瞼のタイトニングと上眼瞼のリフティング効果は、手術的治療を希望しない患者において、満足度の高い治療法である。ざ瘡瘢痕への炭酸ガスフラクショナルレーザー治療はすでに広く行われているが、リストカットによる線状瘢痕やケロイドにも効果を認めたので症例を供覧する。